

記念講演 (本文は、JECC 主催「2016年度優秀保守技術者表彰式典」の記念講演を要約したものです)**人口からみる日本経済とITの未来**講師 日本総合研究所主席研究員 **藻谷浩介**

日本総合研究所主席研究員

藻谷浩介

株式会社日本総合研究所調査部主席研究員、日本政策投資銀行地域企画部特任顧問、特定非営利活動法人 ComPus 地域経営支援ネットワーク 理事長。東京大学法学部を卒業後、日本開発銀行（現・日本政策投資銀行）、米国コロンビア大学ビジネススクール留学等を経て、現職。

受賞された皆さま、誠におめでとうございます。そして、日本の屋台骨を支えている皆さまに感謝を申し上げます。本日は「人口からみる日本経済とITの未来」をテーマにお話をさせていただきます。

現在の人手不足は**人口問題に起因している**

労働集約型のコンピュータの保守の世界で、重要な役割の人が辞めたり、病気になったりすると、大変なことになりませんか？ 仕事量は増えているが、人員が増えない。年々複雑化する業務で、相手を待たせることも多い。今の日本に足りないのは仕事ではなくて人手なのです。2015年の完全失業率は、全国平均3.4%ですが、実際には地方でも人手不足が起きていて、例えば福井県の失業率は1.8%、過去15年を調べると最も低いのは島根県な

のです。全国平均の3.4%にしても、景気回復したアメリカが7%まで失業率が下がったといわれていましたが、それでも日本の2倍で、日本は異常な人手不足なのです。

なぜこれほど人手不足なのか、今後どうなるのかを考える時のポイントは、これを人口問題ととらえることです。2010年から2020年の間に日本に住んでいる人が396万人減るといふ予測がありますが、これが300年続くと日本から人がいなくなる、というペースで、まずはゆっくりとしか減っていかないということ覚えておいてください。では生産年齢人口といわれる、15歳から64歳の人はどうなっているのでしょうか。6年前には8,173万人いましたが、4年後には800万人減るのです。こうなると、企業は採用がますます厳しくなってきます。その一方で増える層は、65歳以上の高齢者の人口です。65歳以上の人は同じ期間で666万人も増えるのです。

人手不足解消のため、外国人労働者に期待する考えもありますが、外国人は日本国内に現在200万人しかいないので、彼らを増やすよりも600万人以上増える65歳以上の人の3人に1人に働いてもらった方がはるかに簡単です。ただ、これには大きな問題もあります。75歳以上の高齢者の3人に1人が要介護、5人に1人は認知症というデータがあるので、誰かがお世話をしなくてはいけないのですが、お世話をする側も絶対的な人手不足なのです。

社会の効率化が**国際競争において最も重要**

人口減少が進む中で、効率化して、かつ壊れない社会を作っていくことが重要になります。20年後には85歳以上の人が1,000万人を超えるという予測に、例えば定年延長すればいいという意見もありますが、全体的な解決にはなりません。また過疎化が進む地方に比べ、東京は大丈夫だという意見については、確かに2013年1月1日から3年間の首都圏の住民票のデータでは、人口が40万人増えていますが、生産年齢人口は32万人減っていて、増えているのは高齢者だけです。ですから、人口が増えている

と油断している東京も危険なのです。

人手不足を改善するためには、社会全体の見直しをする必要があります。コンピュータにできることは任せなければいけません。ただ、すべてを任せるのは絶対に無理です。コンピュータは自己修復ができないからです。いずれにせよ、コンピュータに任せるところがどんどん拡大していき、コンピュータの保守をする業界の人手不足がますます深刻になるのです。

他方、国際競争上では高度情報ネットワークによる社会全体の省エネ化こそが最も重要になりますので、工場だけでなく、社会全体を省エネ化することが求められます。高度情報ネットワークの機能停止はどんな災害よりも恐ろしいことです。

コンピュータの保守点検こそ、日本の社会の根底を支える最も重要なことなのです。

これまで日本はどんどん生産性を上げて、資源がなくてもきちんと外貨を稼ぎ、そして今、世界でまれに見る治安の良い社会を作り上げています。日本はよくやっているといます。人口の減少を止めるために子どもがもっと増える社会作りは重要ですが、本当に最も重要なものは目に見えません。6月の伊勢志摩サミットで逮捕者がゼロだったように、皆さまが日々なさっているコンピュータの守りこそが重要なのです。皆さまが日本の屋台骨を支えているのです。長い時間、ありがとうございました。



人口成熟社会を支えるのはIT

- ① ITは人間の仕事を奪い、経済を悪化させる
⇒ITは常に人手不足の成熟社会を支える生命線
⇒人は、人しかできないこと(感情労働と判断)に従事
- ② 日本の国際競争力を支えるものはものづくりである
⇒産業用ソフトウェアの国際競争力強化こそ最重要
⇒高度な制御による社会全般の省エネ化も重要
- ③ 日本の安心安全を守るのは防衛力と防潮堤と交通インフラである
⇒社会の安心安全の機関は高度情報ネットワーク
・戦争より天災より、情報網の機能停止が最大の脅威
・コンピュータの保守点検が、日本社会の根底を支える